

長くむけたみかんの皮と一緒に、ピース！



施設長 貝沼 寿夫

虐待を防ぐには

残念ながら本年もコロナ禍での新年を迎えました。新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年末、静岡県のある保育園や北海道の障害者支援施設での虐待事件が大きく報道されてきました。これまで障害や老人福祉での虐待は、数多く報道されてきました。今回の保育現場での虐待報道を受け、障害者支援に限らず、もはや人が人を支援する現場では、虐待が起こる可能性は否定できないとも感じました。

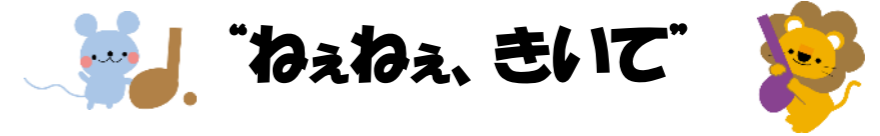
もちろんライフパートナーこぶしでも、虐待を起こしてしまう可能性はありうると考え、人権プロジェクトを中心にこれまで様々な取組を行ってきました。虐待・身体拘束の定義などの一般的な研修、またチェックリストを用いた自身の支援の振り返りなども、これまで何度も何度も行ってきました。その他利用者さん一人ひとりの良いところを探し取組や日頃自分たちがもの見方を肯定的に捉えられているかを確認する肯定語選手権など独自の取組も、年を追うごとに増えてきています。

私たちの中では、前者の取組を消極的権利擁護、後者を積極的権利擁護と位置付けています。少し私なりの解釈を付け加えておきたいと、衣食住の最低限の権利を保障したり、生命や財産などを守る、虐待や差別などから保護や庇護したりすることを消極的権利擁護としています。積極的権利

擁護とは、一人ひとりその人らしい生活や人生を送ることや私たちが障害者支援の根幹として大切にしている生涯発達の考えから、その人らしい成長発達を保障し促すことと考えています。

批判も覚悟で申しますと、私共は消極的権利擁護の取組については、最低限度しか行っていないと。取組のほとんどは、積極的権利擁護に終始しています。特に今年度からこうした積極的権利擁護の取組で東京ナンバー1を目指そうと目標にしているからです。また、私たちに義務付けられている最低限の研修などは、恐らく報道のあった施設でも行われていたはずですが、しかし研修をしたからと言って虐待を防ぐことができないのは、今回の例からも明白です。何よりも大切なのは、私たちが目の前の利用者さん一人ひとりをどのように見て、どんな思いを持っているのか？自分が行うこの障害者福祉という仕事に対して、どんな志や価値を見出すのか？だと感じています。そうしたものを職員が見つけ出せるように、これからも積極的権利擁護の取組を進めていきたいと思っております。

そして、虐待が起こる要因として、職場風土が大きく関わると考えています。何でも言い合える、失敗も許される、お互いで補い合い成長できる、そんな風土と積極的権利擁護の推進、それらに加え支援のベースとなる適切な技術や知識の3本柱があれば、虐待は必ず防げると信じています。



<城間 直哉>

●短期入所を利用されている S さん。3年前のご利用開始当初からこぶしでお風呂に入らず否定的な言葉も見られました。しかし先日、初めてこぶし大浴場のお風呂に入ることができました。また、ご自宅では「こぶし行かないの？」とお母様に聞いてくれていたそうです、嬉しいですね♪

●支援者間のお話で、私用で早退を希望した日がありました。無理を言ってしまうましたが、「絶対に城間が早退できるように」と休憩を調整してくれたり、業務に協力してくれました。仲間、他人のために精一杯身体も気持ちも動いてくれる姿に、とても暖かい気持ちになりました。

キラリ☆と光るこの一枚



ケーキを食べたよ！ハイ！ポーズ！
(鈴木 麻椰)



自治会で花の植え替えやってま〜す！！
(照井 邦明)

今、感じている事

早いものでこぶしと出会って1年が経過します。去年の4月新人研修も終わり、「さあ、これから！」という時に入院したことも遠い昔の出来事のように感じます。本当に史上最悪のタイミングの悪さでした。

生活支援員として決して良いスタートを切れたとはいえませんが、皆さんの協力もあって何とか夜勤までできるようになり、当初の目標の一つを達成することができました。今年は更に一つひとつのルーティンの精度を高め、利用者の方々との関係性を深めて安心感を持ってもらえるよう努めたいと思っています。

自分にとって非常にゆっくりとしたペースで焦りが無いといえれば嘘になりますが、心身の健康管理も利用者さんのためにできる数少ない事だと自分に言い聞かせて、逸る気持ちをコントロールすることも必要なのかな？と感じています。

生活支援員 近藤 剛毅

フォトニュース ～12月の様子～

他山の石



テレビ
ランチ!

創作活動!

ドーナツ
タイム♪

日中活動♪

HAPPY
BIRTHDAY



フシ旅行に
行きました!

新年の始まりは、抱負を考え、新しいことにチャレンジする人が多くいるのではないのでしょうか。私も毎年、去年より良い年にしようと決めています。

近年、様々なところで『虐待』という言葉を目にします。その仕事をやりたいという思いを持って、仕事を始めた人が何かしらの影響で虐待をしてしまう。悲しいという気持ちと誰にでも起きうるかもしれないという恐怖を感じます。

私にも以前、小学生を学童の先生が無理やり席まで連れていき、肩に爪痕が残るほどの力で押さえつけるという事件が身近でありました。その後、学童では身体的接触を極力行わないという方針を決めて、その小学生と職員との関わりを減らしたそうです。その対応しかできなかった学童に残念な気持ちと不信感を持った記憶があります。

こぶしでも、利用者さんがパニックになって他害や物損といったことが起きることがあります。起きてしまったら、場所や職員といった環境を変えて、落ち着くまで時間をかけて対応するようにしています。大切なのは起きる前の状況からなぜパニックになったのかを考え、仮説を立てて支援を行うことだと感じています。

また、学童が事後に取った身体的接触を行わないといった対応も、小学生からすると避けられている無視されるという精神的苦痛があったのではないかと思います。身体的接触といってもハイタッチや握手といった適切な接触を増やすこともできたのではないかと思います。

こぶしでは、「ありがとう」などの言葉の感謝とハイタッチなどの身体的感謝を積極的に行っています。不適応な行動には最低限の反応で対応して、適切な行動には感謝を伝えるようにしています。関わりを減らすのではなく、感謝できる関わりを増やせるように場面設定や仕掛けを考えています。

こぶしは虐待防止の取組を行っていると考えています。しかし大丈夫と慢心することなく、外部の情報から学び、内部での取組に活かしていこうと思います。今年も昨年よりもより良いこぶしを目指して、虐待防止の取組に磨きをかけて行きます。

運営環境整備部部長 高野 竜



楽しい毎日

私が毎日楽しく働ける理由は主に2つあります。一つ目は、利用者さんの日々の成長。技術面だけでなく精神面の成長が凄いのです。昨日できなかった事が今日は出来るようになったり、そこを褒めるとどの利用者さんも嬉しそうに素直に受け止めてくれたりするのは。利用者さん達の成長を目の当たりにし、喜びを感じられるこの仕事、本当に素敵です。

二つ目は、利用者さん達の感情表現です。泣く、怒る、笑う、こういった感情は歳をとると素直に表現しづらくなると思いませんか?しかしふわっとな利用者さん達は実に素直に表現してくれます。これは彼らならではの素敵な部分です。はじめの頃は利用者さん達のストレートな感情に戸惑う事もありましたが、今では理解し対応できるようになりました。心のままに感情表現できる利用者さん達が羨ましくも思えます。私も利用者さん達と共に泣いて笑って、限界突破で伸び代を伸ばしていきたいと思っています。

生活支援員 中村 恵美子



栄養情報 ワンポイント「まごわやさしい」

【まごわやさしい(孫は優しい)】という語呂合わせを知っていますか?日本の食材で、これらを組み合わせると健康的な食生活を送ることができると言われていた食材です。食の欧米化が進んだ現代、意識して食べると、乱れがちな食生活を直して、健康になれるかもしれません。



画像：大阪府食育ガイドより

管理栄養士 小林 由記子